

(6)(住まいと健康研修)フォローアップ調査回答合計集計表

Q1. 本研修は役にたっていますか。

| 回 答 | 派遣元 | 研修生 |
|---------------|------------|------------|
| 1 たいへん役に立っている | 7(38.9%) | 4(16.7%) |
| 2 役に立っている | 10(55.6%) | 14(58.3%) |
| 3 どちらとも言えない | 1(5.6%) | 3(12.5%) |
| 4 役にたっていない | 0(0.0%) | 3(12.5%) |
| 5 全く役にたっていない | 0(0.0%) | 0(0.0%) |

SQ1-1 (Q1で1, 2を選んだ方へ)どのような点で役に立っていると感じますか。(自由記載)

受講生からの情報により、課内で最新の知見を共有する事ができました。ただ、翌年度受講生が異動してしまったため、以降は活用できておりません。

①最新の知識を吸収することで市民への啓発②自治体間でのネットワークの構築

※一定の経験者を受講者としており、受講後他部局への異動の例も多く、成果を生かしきれない部分もあります。

最新の知識習得、及び各自治体との情報交換など、通常業務を行う上で役立っている。

受講後、最新の知識を取得したことから、当初が開設している住居衛生相談窓口他業務全般において専門的に具体的な事例を示し、説明することにより、市民の理解に役立っている。

住居衛生に関する知識の向上により住民からの相談業務に役立つと考えます。

幅広く専門的な知識と技術を習得できるため、実務現場で種々の視点から相談に対応でき、適切に指導を行える。また同じ職務の者への適切なアドバイスができる。

特定建物等の立入検査指導において、最新の情報等を提供することで高い評価を得ている。また、関係職員対象の講習会を開催するフィードバックに努めている。

受講内容について職員研修に活用することにより、最近の状況や他都市の現状を知る事ができ、本市の建築物衛生、住居衛生行政に役立っている。

ねずみ・害虫駆除においては、やみくもに薬剤を散布するのではなく、IPMの手法が有効であることがわかったことから、特定建築物の維持管理に関する指導にもなせ、IPMが必要であるかをよりうまく伝える事ができるようになった点。

本研修へ参加したものは、最新の専門的な知識や技能が身につけられると聞いている。本研修は本市の環境衛生行政の推進に資するものであると感じる。

住環境啓発や建築物衛生の指導には高度かつ最新の専門知識が必要であり、本研修は行政職員が知識を得るための機会として有用である。

県民からの問い合わせに適切な回答ができる(シックハウス等の質問)

普段から疑問に思っていることや考えていることを専門の研究者に直接聞く事ができ、また、各自治体の対応について生の声を聞く事ができるため。

研修を受けた職員による伝達講習を通じて、すべての保健所の居住環境衛生指導・啓発手法等の共有を図り、保健所における指導相談体制を充実させる事ができた。

受講者には県内の環境衛生監視員研修会において、研修内容を報告してもらっており、県下の監視員の知識・技術向上に役立つ。又、住民や業務者に対し、最新の情報を持って指導・アドバイスする事ができる。

県民からの相談にスムーズに回答できるようになった。

他自治体の取り組みや最新の知見等を広い範囲のテーマで学習する事ができ、住民からの相談対応や資料作成等の際に参考とさせていただいています。

①冬季における換気と室内の湿度の調節に関すること②担当窓口ではないが、衛生害虫に関する情報等。

①シックハウスの原因と対策についての最新情報→住民からの相談等②衛生害虫対策

他の自治体の現状を知るという点で参考になった。講義も個人の知識レベルを高めるといってとても有益であったが、現場で生かす機会がなかった(体験が少ない・人事異動)。

現在保健所を離れ、浄化槽指導業務を担当していますが、住宅について色々学ばせていただいたので、構造などの図面を見たりするのに役立っています。

住居衛生相談・シックハウス相談において、研修を受講したことにより、相談者の状況が理解しやすくなり、適切な聞き取りとアドバイスがしやすくなった。

①住居衛生全般の関する知識の補完②建築物における高齢者福祉対策や感染症対策としての新たな視点の養成

研修受講時は本庁勤務だったが、現在保健所に異動し、直接住民と接する機会も増えたため、研修で学んだことを踏まえて幅広い話ができるようになりました。

現在は直接住居衛生関係の業務についていないため、私自身が研修で身につけた知識を活用する機会が少ないのが現状です。しかし、演習で作成した資料については大いに活用しています。また、研修を通じて得た人脈については大変頼もしい存在となっています。

①住居衛生について体系的に学べて良かった②住居衛生について総合的な判断ができるようになった。

他の自治体との意見交流ができ、職務遂行に役立っている。

全国的な自治体の動向その他役立つ知識を得る事ができた。また問題点を他の自治体研修生と共有することにより、対応について適切な選択肢を考える場を設けていただき、役に立った。

研修時の講師の先生を本市の講演会に講師として依頼しました。またパンフレット作成に研修時配布された資料を参考としたことなどが役に立った。

住環境は人の生活に不可欠であり、様々な相談案件の基礎となる。

シックハウス症候群や室内空気環境について、市民に対して講習会を行う時の資料等として活用している。

苦情相談等の対応時に学んだ知識が生かされている。

最近の情報を聞く事ができること、又、他都市の方々と情報交換ができるという事が大変役に立っています。

SQ1-2(Q1で4を選んだ方へ)役に立っていない理由

他課に異動したため

現在担当している業務が違うので

今年度に別の部署へ異動したため

SQ1-3(Q1で5を選んだ方へ)全く役にたっていない理由

Q-2. 今後も本研修に職員を派遣したいと思いますか。

| 回 答 | 派遣元 |
|-------------|------------|
| 1 ぜひ派遣したい | 10(58.8%) |
| 2 派遣したい | 8(47.1%) |
| 3 どちらとも言えない | 0(0.0%) |
| 4 派遣したくない | 0(0.0%) |
| 5 絶対派遣したくない | 0(0.0%) |

SQ2-1(Q2で4を選んだ方へ)派遣したくない理由

SQ2-2(Q2で5を選んだ方へ)絶対派遣したくない理由

Q3. 科学院の研修全般へのご意見をお聞かせ下さい。(自由記載)

通常業務を行う上で貴重な情報収集の場となる事から、今後も継続していきたいと考えています。1回の実施期間を半分かくらいにして、2回実施し、受講人数を増やすことも検討願いたい。実施期間が短期間である研修の充実を望みます。6月に開催される短期研修の受付期間を4月末までに延長してほしい。住まいと健康コースが2年、建築物衛生コースが1年の周期で現在開催されているが、本市では、建築物衛生コースを希望するものが多いので、できるな各コースを隔年で開催していただきたい。今後も継続して研修を実施してほしい。衛生行政を執行する上で基本的な考え方、対処方法など、統一的な指針が必要なため、貴院の研修が必要です。また各自治体間の意志疎通と情報の共有化のために研修の機会を与えていただきたい。

①同じ業務にあたる他都道府県市の職員との交流により、様々な情報と入手できることは業務の改善等に大いに役立っている②5～6月に開催される課程について、参加申し込む等準備期間が短めなので、次年度分申し込む時期を早めてほしい。

長期研修において、集中的に特定のコースの研修を行うことは有意義であるが、様々な状況の中で仕事をしている職員のできるだけ多くが、参加しやすいよう短期研修(1週間以内程度の)を増やして欲しいと思います。

Q-2. 本研修を他の人に勧めたいと思いますか。

| 回 答 | 研修生 |
|-------------|------------|
| 1 強く勧めたい | 10(55.6%) |
| 2 勧めたい | 8(44.4%) |
| 3 どちらとも言えない | 0(0.0%) |
| 4 勧めたくない | 0(0.0%) |
| 5 絶対勧めたくない | 0(0.0%) |

SQ2-1(Q2で4を選んだ方へ)勧めたくない理由

SQ2-2(Q2で5を選んだ方へ)絶対勧めたくない理由

Q3. 科学院の研修全般へのご意見をお聞かせ下さい。(自由記載)

環境に関する知識が深まり、ワーキンググループなどを通して他県の方々の貴重な意見を聞く事が、大変有意義でした。

大変役に立つ研修でした。色々な研修を開催していただきたいのですが、期間が長いと行きづらいです。短期集中型、もしくは1日のみの研修会を増やしていただければ参加しやすいと思います。日程が長期にわたるので、なかなか参加しにくい面があるかもしれません。体系的な知識を身につけるには最適の研修だと思うので、e-ラーニング等を充実していただけると助かります。期間をできるだけ短くし、職場への影響を少しでも減らしてほしい。

①他の自治体職員との交流ができたのは良かった②住環境対策の最新情報を得る事ができたことは良かった。

自分自身や自分の自治体と他の比較ができる有用な機会であると思います。特に札幌市の場合は近隣(道内)の自治体とおかれている環境が大きく異なり、同じ様な自治体が近くにないため、特に有益性が高いと感じています。

普段は都内保健所同士の付き合いが中心となるため、様々なエリアの保健所の住居衛生に対する各種スタンスや取り組み、さらに保健行政全般に関する状況を生の声で織りえる貴重な経験を充分させてもらえるものとして重要な研修と思われる。

科学院の研修は知識・技術の獲得や他の受講者とのネットワーク作りにもとても有意義に思います。今後もぜひこの研修制度を続けてもらいたいです。

今後も「住まいと健康コース」の研修は継続していただきたい。

私が受講して以降、平成19年度から、特別課程の研修期間が4週間から3週間に変更されたと聞きました。どの講義も現代の住居衛生を考える上で、大変有意義なものであったと思います。ぜひ研修期間を4週間にした方が、より充実して成果をあげることができると思います。

特にありません。当時は1ヶ月間の研修期間でしたが、現在は短縮されましたので。

一般的な知識の習得を目的とする講義より、実務に直接役に立つ研修の企画をお願いします。

保健所職員にとって科学院の研修は自信につながるものであるため、今後も有意義な研修を開催してもらいたい。

研修主任の総括的コメント

派遣元による今後の派遣意向（「是非派遣したい」59%）、受講者の勧奨意向（「強く勧めたい」36%）については、一定の評価を得たと考えている。シックハウス等の相談業務には専門的知識が不可欠と考えられていると同時に、自治体間で取り組みの幅がある本業務では全国的動向を知ることが重要と認識されていることがこの評価の主な要因と考えられる。一方、「研修が現在の職務遂行に役立っているか」の設問については、若干の否定的回答も含まれていた。これらはすべて、2年前の受講者が異動したために「現在の職務遂行には直接的に活かせない」という意味での回答である。建築物衛生研修でも同様であるが、住居衛生が他の業務と異なる専門的知識を必要としていながら、本業務が環境衛生行政の幅広い分野の一つに位置づけられ異動の可能性があることをどのように考えるか、独自の調査結果を含めて検討し、今後の研修プログラムに反映させたい。

なお、この調査結果を外部に公表する場合には、「研修が現在の職務遂行に役立っているか」についての「役に立たない」「全く役に立たない」の回答に関して（場合によっては「どちらともいえない」についても）、異動によって評価が困難となっているものが含まれていることが容易に判断できるような工夫が必要であろう。

個別質問

(住まいと健康研修)フォローアップ調査

1. あなたは、現在も「住まいと健康」やこれに関連する業務を、

| | |
|------------------------|------------|
| ①行っている。 | 12(57.1%) |
| ②他の部署に異動があったため、行っていない。 | 9(42.9%) |

2. あなたは、本研修で学んだ内容について、

| | |
|-----------------------------|-----------|
| ①保健所内で同僚環境衛生監視員等に伝達、説明を行った。 | 9(42.9%) |
| ②県(市)内の環境衛生監視員等に伝達、説明を行った。 | 9(42.9%) |
| ③特に伝達、説明は行わなかった。 | 1(4.8%) |

①②に○をつけた方にお聞きます。どのような方法で伝達、説明を行いましたか。

| | |
|--------------------------------|-----------|
| ①研修を企画し、スライドや紙面等の媒体を用いて口頭伝達した。 | 7(33.3%) |
| ②必要に応じて資料を用い、口頭伝達した。 | 6(28.6%) |
| ③研修の配付資料を回覧・配布し、特に口頭で説明はしなかった。 | 5(23.8%) |

3. あなたは、本研修で学んだ内容について、業務における判断や企画・行動に、

| | |
|-----------------|-----------|
| ①大いに活かしている。 | 4(19.0%) |
| ②おおむね活かしている。 | 9(42.9%) |
| ③今のところ活かす機会がない。 | 6(28.6%) |
| ④どちらともいえない | 1(4.8%) |

①②に○をつけた方にお聞きます。具体的にどのようなことに活かしていると感じますか。

| |
|--|
| <p>相談対応や資料作成・判断の際の根拠等に活用しています。</p> <p>室内空気環境の重要性等を説明する場合等。</p> <p>一つの分野について深く学んだことにより、判断・行動時の自信につながっていると感じる。</p> <p>住居衛生相談・シックハウス相談</p> <p>パンフレット等を作る際に成果物作成する研修が活かされました。</p> <p>相談に対して科学的な根拠を用いて説明できるようになった。</p> <p>住民からの相談対応時の判断。</p> <p>住居衛生相談</p> <p>シックハウス等の相談時に資料を見て、適切なアドバイスを行っている。</p> <p>相談者に対するアドバイスの際、研修で学んだ知識やアプローチ法を選択肢に入れ、より事例ごと、相談者の悩みが解決するようにしています。</p> <p>図面審査において、より詳しく見る事ができるようになった。</p> <p>市民向けの講習会など</p> <p>住まいも含めた建築物内閉鎖空間における感染症・予防対策の想起…SARS対策講義より。</p> <p>窓口での相談の他、保健所で行う母親教室等の講習会など。</p> |
|--|

4. 研修中に実施した住環境教育演習及び施策提案演習で作成した課題について、

| | |
|--------------------|------------|
| ①業務に大いに活かしている。 | 0(0.0%) |
| ②業務におおむね活かしている。 | 4(19.0%) |
| ③業務に今のところ活かす機会がない。 | 15(71.4%) |
| ④どちらともいえない | 2(9.5%) |

5. あなたは、研修で構築した他の受講者とのネットワークについて、

| | |
|--------------------|------------|
| ①業務に大いに活かしている。 | 0(0.0%) |
| ②業務におおむね活かしている。 | 3(14.3%) |
| ③業務に今のところ活かす機会がない。 | 13(61.9%) |
| ④どちらともいえない | 5(23.8%) |

①②に○をつけた方にお聞きます。具体的にどのようなことに活かしていると感じますか。

特異事例に対する他県の対応等をメールを通して情報交換していたが、研修終了より2年3年と経るごとに交流がなくなってしまった。

他の自治体での現状をリアルタイムで確認できるので、統計資料等を作成する際に便利だと思う。

直後は業務上の意見交換などを頻繁に行っていましたが、保健所業務を離れてしまってから連絡をとらなくなってしまいました。

建築物衛生に限らず、他の分野についても、他自治体の取り組みが建前なく聞けること。

疑義照会など情報交換に役立っています。

※最近まで職場に職員個人用(私用も含む)パソコンがなかったため、チェーンメールには不参加。

6. 上記に挙げたH18年度の研修の獲得目標は、

| | |
|---------------------|------------|
| ①現場のニーズを大いに反映している。 | 3(14.3%) |
| ②現場のニーズをおおむね反映している。 | 14(66.7%) |
| ③現場のニーズをあまり反映していない。 | 1(4.8%) |
| ④どちらともいえない | 2(9.5%) |

具体的な要望・ニーズがあればお書きください。たとえば、H20年度の「住まいと健康」研修では、「体系的な知識」を「公衆衛生従事者が住まいに関わることの意義」「住環境の健康影響とその対策」「建築技術者等との連携に必要な関連知識のポイント」に分け具体的な獲得目標としています。

シックハウスに関する相談は一時期より少なくなってきた感じがします。一人暮らしの高齢者に関する居住環境の問題等も今後ニーズが増加するのでは？

シックハウス相談の対応法

ニーズそのものが少なくなっている感じがします。

7. 現在は、「住まいと健康」研修を3年に2回、「建築物衛生」研修を3年に1回のローテーションで開講しています。どちらも3週間の研修です。「建築物」と「住居」では、根拠法の有無や監視指導と相談啓発といったアプローチの相違を考慮して別のプログラムとしているのですが、両研修を統合して「住居・建築物衛生」研修を実施するという考え方もあるかもしれません。今後の研修の開催について、

| | |
|--|-----------|
| ①現状通りのローテーション開講が良い。 | 3(14.3%) |
| ②「住まいと健康」研修と「建築物衛生」研修を隔年開催とする方が良い。 | 8(38.1%) |
| ③「住まいと健康」研修と「建築物衛生」研修を統合して、毎年開催する方が良い。 | 9(42.9%) |
| ④その他の開催方法が良い。 | 0(0.0%) |

統合する場合の望ましい日にち

10日・14日・20日・21日・28日

その他の具体例

課内異動がケースによっては3～5年に1回なされる、中堅職員が増えてきたため(環監⇔食監・薬監)

8. その他、研修について、ご意見・ご要望があればお書きください。

研修について、コマ切れで行うのでは真の力になりにくい。ある一定の期間缶詰めで、他の事を忘れて一つのテーマに集中する方が良いと思われる。

非常に有意義な研修でした。今後もぜひ続けていただきたいと思います。

市役所の場合、長年にわたり、環境衛生監視員業務を行う事は少ないのであるが、「住まい」は多くの業務で参考となる研修である。また、この研修を伝達ではもちろん、直接に環境衛生監視員には受講してもらいたい。

地方自治体は財政難の為、人員削減を強いられており、一人当たりの業務量が膨らむ一方である。したがって、一人でも職場をあける期間が長くなると、影響が非常に大きくなっている。従来の研修では、知識のインプットと演習の二本立てで進められていたように思うが、期間を短縮し、知識のインプットのみで研修を行ってもいいのではないかと思う。

相談に対し、多角的に視る、という事は有益だと思います。両研修の統合は行政職員(特に公衆衛生従事者、環境衛生監視員)が「住まい」の分野で「生き残る」為の知識を得る事ができる重要な機会になると考えます。

シックハウス等の相談は増加傾向にはなく、建物の大型化・複合化などにより、建築物に関する最新知識の習得等も大きなウエイトを占めると考えます。

3週間の研修では、殆ど講義を受けるだけになるので、自分達で考える実習時間を確保するためにも、できれば、日程を長くして欲しいと思う。

保健師は一人だけの参加だったのが、少し残念であった。現状では今回の研修に関連した住まいに関する相談は、都道府県の保健師よりも、市町村の保健師の方が受けている事が多いのではないかと思います。アレルギー対策などに関連した取り組みをやっている自治体の参加が多ければ、保健師の参加も多くなるかもしれません。建築物と住居が統合すると、保健師の参加はさらに難しくなりそうな気がします。介護が必要な人のための住宅改修や、アレルギー対策などについては、保健師研修に組み入れて欲しい内容でもありました。

現在、事務事業の見直しが進む中、少人数で業務をこなしている環境衛生担当にとって、長期の研修に参加することは、なかなか厳しいものがあります。一方で貴院での研修は「住まいと健康」や「建築物衛生」に関して系統的に学べる絶好の機会であり、又、他都市で同様の業務を行うものとの交流やネットワーク作りにも大いに役立つものです。今後も他の職員には、貴院での研修を勧めたいと思いますが、貴院におかれましても、質問7にも記しましたように、二つのテーマを統合するような形で、なるべく、多くのことを短期間で集中して学べるようなプログラムにさせていただけると参加しやすいかと思いません。

研修主任の評価、分析、コメント

2年前に実施された研修であるが、4割が異動によって「住まいと健康」に関する業務から離れていた。異動が避けられないとすれば、伝達講習等による知識や技術の組織的蓄積が重要となるが、伝達は概ね実施されている。また業務への活用状況では、「活かしている」ものが6割を占め、異動者を含めた回答であることから考えれば一定の評価を得たものといえよう。課題としては、演習で作成した成果物や受講者間のネットワークを業務に活かす機会が少ないことであり、前者については演習課題・方法の再検討が必要で、次年度一部変更を予定している。後者については、チェーンメールの管理方法の検討やフォローアップのための遠隔研修の活用などを検討する。一方、「住まいと健康」「建築物衛生」研修の統合化、あるいは分離開催の場合のローテーションについては、この調査の回答も参考にして検討することにしたい。